工業つ子

NO.087
—発行日—
2013.09.27
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

「試験にドキドキ、合格にワクワク」

就職試験スタート！

今年もこの季節がやって来ました。九月十六日から、県外を中心に三年生の就職試験が始まっています。就職試験を目前に控えた三年生の心境を伺ってきました。

三年生にインタビュー

Q今、一番不安なこと。

―面接／落ちること／慣れない環境でうまくやれるか／他の受験者とのコミュニケーション／試験会場に辿り着けるか

Q試験に向けて頑張ってきたことは何ですか。

―夏休みから放課後、毎日面接練習／資格取得。試験で有利だと思ったから／集団討議。違う科の人とも練習した／体調管理／履歴書書き

Q会社選びのポイント。

―車のタイヤに興味があった／夢に最も近い職業／新入りの教育制度が充実している／休みが多い／学校で取った資格を生かせる

Q今年の就職試験は厳しいですか。

―求人数自体は増えているけど、一つの会社に人が集まってるから、あんまり変わらないね。

Q就職に向け、特にしておくといいこと。

―自己PRが出来る人が少ないので、どうしてその会社に就きたいのか、明確に表せるように。それに毎日授業を真剣に、寝ないでコツコツ取り組もう。その姿勢が企業に評価される。

Q三年生へ向けて一言。

―最後まで諦めずに取り組んでください。

ちなみに三年学年主任の**渡海先生**は「三年生皆が自分なりに精一杯頑張っていた。面接では、自分のことを正直に話すことが大事。とっさの質問に答えるため、常日頃からいろんな人と話そう」と話しました。

―絶対受かる」と意気込む三年生たち。後は試験の結果を待つのみです。

▶試験のプランは…？

▼集まった三年生たち

進路指導室の上野先生に、三年生の就職活動について伺ってきました。

▲頼れるナイスガイ

「忘れない」の大事さ

文化部のIH「総文祭」。長工新聞部も三人が選手として参加し、選手以外も取材に雑用にと駆け回りました。

その「しおかぜ総文祭」で私が驚いたことがあります。その一つが総文祭実行委員会生徒による企画「鶴は折ろうで！」です。総文祭で長崎を訪れた全国の方々に平和を祈る鶴を折ってもらう企画で、その鶴は大会終了後、長崎市の原爆資料館に寄贈されました。

長崎に住む人の多くは、幼いころから幾度となく原爆や平和に関する事柄に触れてきています。しかしその一方で何度も何度も平和についての話を聞く内に、いつしか慣れすぎて心が「雑」になっていることがあるような気がします。実際、私も「またか」と思った経験があります。ところが総文祭の実行委員は長崎の高校生として全国大会で平和を発信することを大事なことと捉えて行動していました。

さて、総文祭が開催された夏、新聞でたびたび「福島原発の汚染水問題」の記事を見かけました。高濃度の放射能汚染水がタンクから流出したという聞くだけで重大さを感じる話です。最近、新聞を見ていると、その心配な筈の問題の新聞での扱いが、日が経つにつれて小さくなっていくような：。そして、未解決の汚染水問題に代わり大きくなっていく記事はオリンピックの東京招致という輝かしい話題でした。

どんなに大事なことでも、それが危険極まりない大事件でも、日が経てば人の危機感は薄れてきます。オリンピックを日本で観戦できると思うとわくわくしますが、五輪決定を喜んでばかりいると、その裏に今もある汚染水問題などがどうかすると軽視されがちになります。そのようなことを考えると原爆の遠く悲惨な記憶を伝えようとこの夏、実際に行動した総文祭の実行委員の皆さんには敬意を表します。

関心を持ち続けることが大事なことなのです。

（下平）

それは、青春そのもの

全国高等学校総合文化祭長崎大会

▶紙吹雪で開幕を飾る!!

七月三十一日から五日間、長崎県内の十五市町で行われた全国高等学校総合文化祭―通称「しおかぜ総文祭」。総合開会式は長崎市のかぶとがにアリーナ。

生徒実行副委員長・川浪美希さん（長崎東）

「文化の船、出港します！」の声が総文祭の始まりを告げました。

実行委員は県内の高校から募集され、二年前から合宿などを通じて連携を高めてきました。

長工から参加した実行委員三人にインタビュー

▼M3中村魁君

「ここまで出来る高校生もいるんだな、と感じた。初めて会う人との話し合いを通じて、コミュニケーション力もついた思う」

▼A3馬場悠喜君

「開会式が大成功して、実行委員の皆で泣いた。何万人の心に革命を起こせたと思う。総文祭は、高校生活の青春そのもの」

▼D3佐原航平君

「四十七年に一度の総文祭を自分たちの手で作り上げられてよかった。この経験を人生の糧にする」

開会式実行委員長の加藤正美さん（松浦高）

「これまで全部、皆で頑張って来た。」と語っていた開会式。国際交流や平和の大切さを伝えるステージで、観客の感動を呼び、大いに盛り上がりました。

▲インタビューを受ける加藤さん

▶総合開会式「国際交流」の中で、特に異彩を放ったオランダのバンド演奏。その美声にシビれました。

総文祭に参加した長工生の声

▼美術工芸部門
J3山尾鉱子さん

―スタッフとしても出品者としても参加したので、色んな角度から見る事ができました。総文祭で沢山の人の思いを聞くことができたので、これからの作品制作によい経験になったと思います。

▼将棋部門
J3井上聖隆君

―委員長という仕事で自分を高められると思ったから、委員長に立候補しました。見ている人まで熱い戦いに引き込むことが将棋の魅力だと思います。総文祭が青春の思い出になりました。

▼自然科学部門
C2右田章兵君

―ハイレベルなプレゼンが凄かったです。人前で話す力が鍛えられたし、大勢の前でも緊張しなくなってよかったです。

▼自然科学部門
P2竹田健太郎君

―科学物理の口頭発表を行いました。練習した分、いい結果を得られたので、これを次に活かしていきたいです。

▼総文祭サミット部門
A2井口清太君

―生徒会から毎年何人か参加していて、良い機会だと思って参加しました。行事運営は各高校の学校によって特色が違ったので、これからの長工に反映させていきたいです。

▼文化祭サミット部門
C2杉山仁志君

―各県の文化祭や県独特の文化を伝えてアピールして、長崎にない文化を学ぶ事が出来た。交流会でステンドグラスをグループで一緒に作った事が印象に残っています。

長工生にとっても青春の一ページになるような素敵な大会になりました。

▶▶開会式と同日に行われたパレード。長崎市水辺の森公園に多くの見物客が詰め掛けました。

ちょこっと名場面

今日の一枚 ～足音～

▼成長途中

思い出とかなしみ持ちて過ぎる夏

夜になると、半袖では肌寒いと感じるようになりましたね。夏休み中には「少し黙ってくれ」と思っていたセミの声も聞こえなくなり、だんだんと秋が身近になりつつあります。さて、今回の一枚は「まつぼっくり」。まだ小さく縮こまっていますが秋本番には綺麗に開いた「まつぼっくり」の姿が見られることでしょう。夏が過ぎて行くのは寂しい気もしますが、秋にはもっと多くの楽しみが待っていそうです。

（畠道）

青春日記

初秋。昼間はまだまだ暑いとはいえ、朝になると肌をなぞるような寒さを感じるようになりました。おかげで自転車通学（オール下り坂）の私は毎日チキン肌全開。最寄り駅までの片道二十分間、私は人と鶏のハーフとなるのだ！学ランはいつになったら着れるようになるのかね。

話変わって先日、私と同姓の某電気屋でCDプレイヤーを買いました。「創業セール中大特価！」という魔法の言葉にかけられて購入を決意し、自転車のかごに乗せ三時間かけて帰宅。勉強机の一角に堂々と立つ純白の姿はまるでユニコーンの様（謎）。机の三分の一が埋め尽くされたが気にしない。オサレなミュージックライフが今、始まる……そう思っていた矢先、ある問題が生まれました。CD持ってねえ。

さあ、ここで浮上してくるのが高校生の永遠の課題の一つ、金銭問題。上手い具合に「これがしたい」「あれが欲しい」の妥協点を見つけ、金策を立てる。この能力が高い人は社会に出ても安泰なのだろうがうが…。ちなみに私はこれが絶望的に下手。月半ばを迎えると、財布の中には赤茶色のコインが数枚あるのみ。色々と出費の多い男子高校生とはいえ、この散財具合は異常じゃないかろうか…。そう思って溜まったレシートを覗いてみると、有り金の大半がスウィーツ代に消えていました。美味しいもんね。しょうがないね。

誰か私にスピッツのニューアルバムを買ってください。

（山田）

出場者、参加者の感想は……

美術、自然科学部門の出場者、将棋部門実行委員長、生徒会文化祭サミット参加者に聞く